

病院理念

私たちは地域の方々に愛され、
安心して利用できる病院をめざします。

基本方針

1. 地域医療のニーズにこたえる
2. 温もりのある医療サービスを提供する
3. チーム医療の充実を図る

2月半ば過ぎの大雪・・・寒そうに立つ桜の木が私の診察室から見えます。
『冬さびて枯れたるとき庭木立しずかに命養えるなり』

窪田空穂

冬空に立つ裸木を見ての感興は人さまざまではありますが、『真冬の木々は
休眠しているにとどまらず、実は春のために、ひそかに命を養っているのだ』とい
う見方のあることに、私は空穂によって気付かされました。



医師 鈴木健司

さて、今日は病気のお話を少し。

厚生労働省研究班は、2008年、認知症と考えられる高齢者の数は、2005年の205万人から
2035年には2.2倍の445万人に増加するという推計値を発表しました。65歳以上の高齢者の8人に
1人が認知症になる計算です。軽度の認知機能障害までを加えると、その数はさらに増加します。

認知症は正常に発達した知的能力が、脳の障害により持続的に低下した状態ですが、脳萎縮や脳の
障害部位に基づいて様々な臨床症状を呈します。頻度の高い3大認知症の特徴的に症状について以下
にまとめてみます。

アルツハイマー型認知症：記憶の障害から始まり緩やかに進行し、全般的な認知機能の低下をき
たしていきます。精神症状として、物盗られ妄想や抑うつ状態、徘徊などの行動障害が出現する
こともあります。

血管性認知症：認知機能にむらがあり、「まだら認知症」と呼ばれることもあります。障害され
た部位によって、記憶の障害や神経の症状・抑うつ状態・実行機能障害など多彩な症状が階段状
に進行して出現します。

レビー小体型認知症：記憶の障害や視覚認知の機能低下などの認知障害に加えて、鮮明な幻視、
認知機能の変動、神経症状としてのパーキンソン徴候が認められます。

認知症は少しでも早く発見できれば、根本的に治せなくとも進行を防いだり、遅らせたりできるも
のもあるため早期発見が大切です。

脳卒中は死因の第3位をしめていますが、発症後に認知障害を呈することも多く、危険因子として
高血圧・糖尿病・心房細動・脂質異常が挙げられています。

食習慣の見直しや、運動や知的行動の習慣を生活に組み入れることを通して認知症の予防に心を配
りましょう。

春が待ち遠しいですね。このお便りが届く頃には桜の花芽がふくらみそめているかもしれません
ね・・・。

病院の紹介

黒川病院は昭和29年創設以来、阿賀北地区の精神医療を中心に行っております。

平成4年に従来の精神病棟に加え認知症の方を専門に治療する痴呆疾患治療病棟を増設しました。現在は精神病棟(58床)、精神療養病棟(111床)、認知症病棟(100床)の269床となっており、緑豊かな自然環境の中、患者さんは療養されています。

また、介護老人保健施設やまぼうし・黒川居宅介護支援事業所・地域包括支援センターやまぼうしを併設しております。



外来診療は、従来の精神科に加え、もの忘れ外来、児童外来を受け付けております。初めての方は予約制となっておりますので、当病院窓口までお問い合わせください。

病棟の紹介

今号より病棟の紹介をしていきます。日頃の病棟の様子や取り組みなどを順次紹介します。今回は急性期病棟(精神病棟)です。



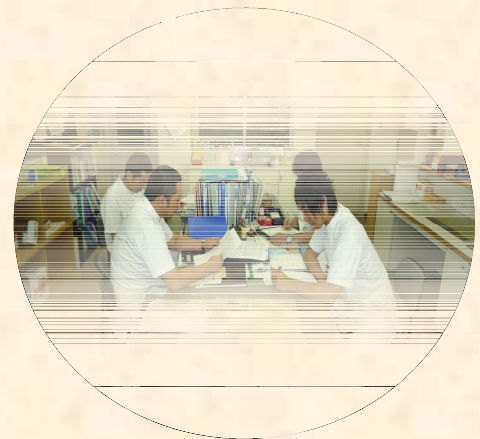
師長 布川貴弘

急性期病棟で師長をしている布川です。当病棟について簡単に御紹介致します。

病棟のベッド数は56床あり、うち男性44床、女性12床となっています。病棟で行っているプログラムとしては「生活ミーティング」や「病棟レクリエーション」等があります。

生活ミーティングは、毎週火曜日の10時45分から11時15分までの30分間を患者さんとスタッフ間で話し合う時間として設け、病棟生活を行っていく上で困っている事や今後の希望などについて一緒に考えています。

開始当初はミーティングの司会はスタッフが行っていたのですが、開始から3年が過ぎ、現在では患者さんが率先して司会を行ってくれたり、ミーティングの中で患者さん同士の意見交換が見られたりと、患者さんの「話す技術」が向上してきている事を肌で感じています。



患者さんの作品です

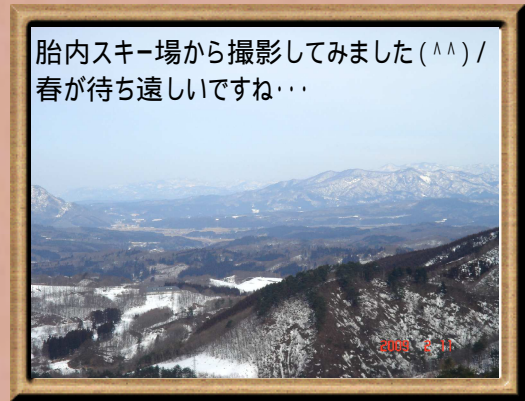
病棟レクリエーションに関しては、現在、病棟スタッフ数の関係から毎日行うのは困難であり、月に1~2回のレクを行うのが精一杯の状況です。以前は塗り絵や習字、トランプや麻雀などが毎日のように行われていました。また、市の作品展に出展したこともありました。昨年の作品展には「トキ、歓迎胎内市」という作品を出展いたしました。御覧になった方もいるかと思いますが、素晴らしい出来栄であったと思っています。

これらのプログラムを行っている理由の一つとして、

↓「患者さんの生活能力の維持・向上」がありますが、患者さんが生活能力を回復し、社会へ復帰していくためには病院での取り組みだけではなく、地域の皆さんの御理解と御協力が必要不可欠なものとなってきます。当院が理念として掲げているように「地域の方々に愛され、安心して利用できる病院」を目指しスタッフ一同取り組んで行きますので、皆さんの御理解と御協力の程を宜しくお願い致します。

くろかわ写真館

胎内スキー場から撮影してみました(^^)/
春が待ち遠しいですね…



お知らせ

「患者さんの食事がより安全に！」

高齢の方によくみられる病気のひとつに誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）というものがあります。

老化や病気の後遺症などから食事の飲み込みが悪くなり、食物や唾液などが肺に落ち雑菌が繁殖してしまうことにより引き起こされるとされています。

当院には高齢の方もおられ、病気の後遺症により誤嚥性肺炎を引き起こしかねない患者さんも入院されていることから、それぞれの患者さんの摂食状態に適した食事形態にて提供することを日頃から心がけております。

従来より必要と思われる患者さんについてはとろみ調整を行っていましたが、それでもなお飲み込みが悪い患者さんに対して、より個別の対応を行わなくてはならないと以前より考えておりました。



そこで検討を重ねた結果、今年2月以降の取り組みとして病院から提供させていただいている食事に関しては、従来の食事形態に加えてさらに細かい調整が行えるようとろみ補助剤を使用させていただくことになりました。

そうすることにより、患者さんの状態に応じて飲み込みやすい硬さにして食事を提供させていただくことが可能となり、従来に比べより安全に食事をしていただけるようになりました。

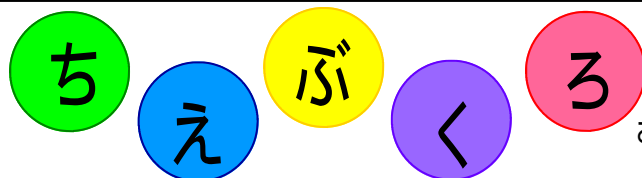
また大変申し訳ありませんが、当院で提供させていただいている食事以外の食物（患者さん自身が購入されるおやつやジュースなど）につきましては対象外とさせていただきます。

もしそれらにとろみをつけることが必要と思われる方に関しましては担当看護師から個別にご連絡させていただく場合がありますのでよろしくお願い致します。

トロメリンA 価格（当院 売店価格）

- ・スティックタイプ2.5g×50個 1450円
- ・大袋500g入り 2500円





知っていて損をしない!
ちょっと気になることがあるけど今さら聞けない…などなど
おばあちゃんの知恵袋的な内容をお届けします。

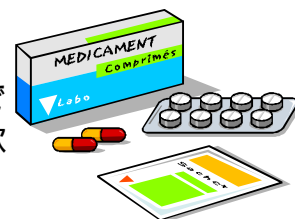
皆川薬剤師さんに聞きました。

お薬の飲み方について教えてください。

1日1回～4回で飲みます。飲む時間は朝1回や夕1回、1日2回の朝・夕、1日3回朝昼夕、1日4回朝昼夕食後と寝る前、寝る前1回といろいろあります。そのほとんどが食後に飲みますが、糖尿病薬や漢方薬は食前のものがあります。寝る前の薬は布団に入る30分前に飲んで下さい。

お薬を飲み忘れた時はどうしたらいいですか?

飲み忘れたと気づいて1・2時間位ならすぐ忘れた分を飲んで下さい。また、次の飲む時間に近い(1・2時間で次の薬を飲む)ような時は飲まないでください。



お薬を多く飲んでしまった時どうしたらいいですか?

薬の効き目が強く出ますので、安静にして休んで下さい。また、しばらく状態が落ち着くまでお薬は飲まないようにして下さい。

外来診療のごあんない

診療科：精神科 内科 歯科

診療日：月曜～金曜日

(土日祝祭日は休診いたします)

ただし、再来の方のみ第1、第3土曜日午前診療を行います。

受付時間：午前8時30分から11時まで

診療時間：午前9時から (診療は午前のみとなります)

もの忘れ、児童外来を受け付けています。

児童外来は予約制です。

初めての方は予約制です。

相談窓口

初めての方の予約に関して、また診療に関する事や年金、制度の件でお困りの事がございましたら、ご相談を受け付けております。

0254-47-2422 相談員まで

事務からのお願い

月に1度、保険証を窓口へ
お見せください。

- ・健康保険証
- ・後期高齢者医療被保険者証
- ・限度額認定証

変更がありましたらすぐに
ご連絡ください。

請求書は毎月15日前後に郵送
しておりますので月末まで
にお支払いください。

医療法人 白日会 黒川病院
〒959-2805
新潟県胎内市下館字大開1522番地
TEL0254-47-2422 FAX0254-47-3181
http://www8.ocn.ne.jp/~k-hosp/

作成：黒川病院 広報委員会

－編集後記－ 今年の冬はいつもの冬より暖かく雪も例年より少なかったとはいえ、この広報誌をお届けできる頃には長かった冬もそろそろ終わりを告げ、待ち望んだ春もそこまでといったところでしょうか?

広報誌もおかげさまで第2号を発行することができました。今後は皆さんに楽しんでいただけるようなコーナーもたくさん作っていかうと委員の中で検討しておりますので「こんなことを知りたい」とか「こんなことを聞いてみたい」というようなことがあれば皆さんからご意見等もいただけると幸いです。(T.K)